医療法人社団公佑会広報誌

さくら

No.60 平成31年2月発行

宮崎県えびの市大字大河平4327-37
TEL 0984−33−2127
URL http://www.kyk.or.jp

平成最後の年末年始を皆さんは、どのように過ごされたでしょうか。

公佑会の各施設では、今年も、クリスマス忘年会や蕎麦打ち、餅つき等の行事が行われました。

忘年会では、鍋やお酒がふるまわれ、皆さん楽しい時間を過ごし、余興にも大笑いする姿がありました。蕎麦打ちや餅つきでは、利用者が大活躍！職員の手つきに指導が入ることもありました。また、新年を迎えるために、手作りの門松や生花、お飾りなどで正月気分を盛り上げていました。

これからも公佑会では、多くの方が元気に笑顔で過ごせるよう、職員一同、様々な活動に取り組んでまいります。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

素晴らしい時代を迎えるために

医療法人社団公佑会理事長　丹　光明

平成最後の年になりました。昨年もいろいろな事件や事故があり、多くの若い命が失われました。人の思い出や経験の量は、その人生の長さに比例します。長生きするという事は、それだけ多くの思い出が生まれ、豊かな経験をすることができるということです。それだけでも幸福な事だと思いませんか。世の中には辛い人生もあり、長生きだけが幸せとは限らないという意見もありますが、科学技術の分野をとっても楽しみがいっぱいです。新しい技術が生まれ、生活そのものが便利に変わって行くことを現実に経験できるのです。例えば、インターネット社会では収集できる情報量が格段に増えました。以前は、新聞やテレビ、雑誌からの一方的な情報が入るだけでしたが、現在は玉石混淆の多くの情報を得ることができます。その中には、いろんな方向からの視点もあり、思考の幅が広がりました。また、買い物も便利になりました。私は本屋さんが好きで、何気なく手に取った本が素晴らしい本だった事はあります。しかし、欲しい本が決まっている場合の便利さはインターネットにはかないません。私も昨年から高齢者に足を踏み入れましたが、この時代は特に長生きする事が幸運だと思っています。

今、最も楽しみなのはリニアモーターカーです。２０２７年にリニア中央新幹線として開業予定です。これは東京―名古屋間を40分で結びます。さらに、２０３７年には東京―大阪間が67分で結ばれます。２０２７年には74歳、２０３７年は84歳になりますが、たぶん間に合うでしょう。陸上で時速５００㎞を経験したくはありませんか。

通信速度の高速化も早ければ今年から実用化が期待されます。今でもインターネットで映画は見られますが、昨年から始まったテレビの４Ｋ放送など、より大量の情報処理のために高速通信技術が求められているのです。血圧や脈拍などの生体情報は今でもリアルタイムで計測可能です。高速通信により24時間の検査データが収集され、ＡＩ技術も利用した病気の早期発見や治療効果の判定に使われるでしょう。他にも、遠隔手術の拡大など、地域間の医療格差の解消へもつながります。

数年後には自動運転が当たり前になるでしょう。高齢者の事故がクローズアップされ、免許証返納が進められる世の中ですが、田舎における車の運転の必要性は死活問題です。自動運転の実用化により免許の返納どころか、免許証自体がなくなるかもしれません。自動運転が一般的になるまでは運転していたいものです。また、これらの技術の進歩は、距離の短縮につながり、東京への一極集中から地方分散への足がかりにもなりえます。

医療面で楽しみなのは、ｉＰＳ細胞の実用化と免疫療法の進化です。多くの慢性疾患はｉＰＳ細胞で完治する可能性があり、現在の医療政策に大きな影響を与えます。すでに不治の病であったパーキンソン病への臨床実験が始まりました。現在、ｉＰＳ細胞の癌化という問題はありますが、実用化に向けて着々と研究が進んでいます。

ノーベル賞を受賞された本庶佑教授の研究により、免疫療法は大きな転換期を迎えました。今までの免疫療法は癌細胞への攻撃強化でしたが、新しい免疫療法では、癌細胞の防御力を低下させるという全く方向性の異なる療法です。癌完治への可能性がかなり広がりました。また、ｉＰＳ細胞による免疫療法への応用も進んでおり、癌年齢に入っている私としては頼もしい限りです。

しかし、文明の進歩は、日の当たる場面だけではなく、影の部分が存在します。自動車ができて便利になった反面、交通事故の増加という新たな負の部分が出てきました。それでも人類は、これらを少しずつ改善改良し、新たな生活環境を手に入れてきたのです。しかし、最近の風潮として一方的な情緒的な報道が多くはないでしょうか。これはマスコミの責任も大きいのですが、個々人の感情的な視点も問題です。技術の進歩には必ず光と影があるという事を前提として、事実の積み重ねによる比較検討が必要です。介護保険においても、保険料の高騰や認定審査の方法、ケアプランの意味、介護の向かう方向など、基本的な問題が山積みですが、報道されることは稀です。それは、介護保険利用者やその家族には関心事ですが、その他の人にとっては興味の薄い事なのです。我々介護に携わる者には、この問題の重要性を広く世に知らしめ、議論検討を行い、より良い制度にしていく義務と責任があります。目の前の事から始めませんか。

新館活動紹介

さくら苑新館では、タオルを使用して行う「タオル体操」を実施しています。

もともとは「棒体操」を行っていたのですが、他に出来る運動は無いかと思い、タオル体操を導入しました。

一般的にタオル体操は体のストレッチを目的に行う事が多いのですが、さくら苑新館はタオル体操の中に日常の生活で行っている動きを取り入れてます。単に投げるや蹴るだけでなく、例えば洗濯物を手洗いする・布を縫うなどの日常の動作です。その中でも力を入れているのが入浴時に身体を洗う動作です。腕、胸、背中、足をこする動きを伝える為に、職員も一生懸命に体操の先生となっています。背中をこする動作は意外と難しいのですが皆さん回数を重ねるごとに徐々に上手くなり、実際の入浴時に背中を洗う介助が少なくなったり、自ら洗われる場面もありました。

今後もこのようなレクエーションや体操の中に、生活に役立つ動作を取り入れ、楽しみの中から自立支援に繋がる活動を取り入れていけたらと考えています。

入所活動紹介

さくら苑入所では、心を動かす活動の一環として、利用者が長年自宅で行ってきた家仕事（家事作業）を入所生活の中で再現する取り組みを行っています。

利用者や家族から季節ごとに行ってきた家事や行事に関する聞き取りを行い、それを元に年間のスケジュールをたて、材料や手順の計画作成、買い物、調理、実食まで利用者が中心として春はお茶・夏は梅干し・秋は味噌・冬はべったら漬け作りなど、それ以外にも沢山の活動を行ってきました。

活動を通す中で知識の交換や相談をする等、互いの人間関係の構築や、活動に対しての意欲の向上に繋がり、リハビリにも積極的になられる方もいました。

今回の取り組みは、「心を動かすことがリハビリに繋がる・生活自体がリハビリである」と、いうさくら苑の目標に添って行われています。また、歳を重ねるごとに、喪失感や孤立感がある中で、「職員に指導する」という役割作りを持ってもらい、高齢者介護でとても大切な、生きがいや満足感を提供する機会にもなっていると思います。今後も、生きがいや楽しみを持って生活できる場の提供を行っていきたいです。

産業文化祭

11月17日、18日の2日間に渡り、第32回えびの市田の神さあの里産業文化祭が、えびの市文化センターで開催されました。

ステージイベントでは伝統芸能の披露や歌謡ショー、保健センターでの健康相談、また各ブースでは物作りや昔の遊びをしたりと、たくさんの体験などを行うことができます。作品展示では、えびの市内の各学校や保育園、高齢者施設等のほか、えびの市民の美術・工芸・手芸品の出展があり、その中で公佑会のそれぞれの部署や個人で作品を出展し、飾らさせて頂きました。

会場に見学に行かれた利用者から「来年はこれを作ってみたいね」「すごく上手だね」等の声が聞かれ、次の作品作りを楽しみにしている方もいらっしゃいました。

みんなで一つの作品を完成させて多くの方に見ていただくことで、作品を作る楽しさや、喜びを感じることができ、とてもいい機会になっていると思います。今後も創作活動など、利用者の皆さんと一緒に考え、楽しみを持って行っていきたいと思います。

老健大会

12月22日（土）、宮崎市のJA・AZMホールで第15回公益社団法人宮崎県老人保健施設協会研究大会が開催されました。

この研究大会では、県内の各施設や専門職が日頃の業務での取り組みや成果を発表し、他施設から色々な意見を頂いたり、情報共有などが行われたりしています。

大会に先立って、全国老人保健施設協会の東憲太郎会長による『30年改訂後の取り組むべき方向性について』と題し特別講演があり、その後、各部門からの研究発表が行われました。

公佑会からは2人が発表者として参加し、山之口伸一（理学療法士）が『進行性疾患に対する在宅屋外散歩にアプローチした1症例』、町浦祐紀（介護福祉士）が『なじみの関係の構築に取り組んだ結果と重要性について』と題し、それぞれ発表を行いました。

大会を終えた発表者からは、「大勢の方の前での発表は緊張した。」「いい経験をさせてもらった。」など聞かれました。

今後も、日々の業務の中で改善してきたことや経験したものなどを、積極的に研究大会等で発表を行い、他施設との情報共有や自己研鑽に励んでいきたいと思います。また、より良い介護が実施できるように職員一同取り組みたいと思います。

国際福祉機器展

東京国際展示場で10月10日～13日に開催された、国際福祉機器展に公佑会の職員4名で参加してきました。

国際福祉機器展とは、14カ国1地域より620社を超える企業や団体が福祉機器を展示し、参加者が12万人にもおよぶアジア最大の福祉用具展示会です。

近年、福祉機器は高齢者だけではなく、日常生活に障害のある方が自立した生活を送る為に欠かせないものになっており、利用する方が増え広く普及されてきています。

車椅子やベッド・リハビリ関係の一般的な福祉用具に加え、専門的な福祉車輌や介護食など、最新で様々な機器やソフトウェアを各専門職が見学・確認を行ってきました。そして、この展示会を通して、公佑会内でも新しい入浴機器を導入する事が決まりました。

福祉用具などの機器は、カタログを見るだけでは分からない事がたくさんあります。実際に見て、触れて、体験する事が大切です。利用者の自立が一番の目的ですが、介護する側も楽に行えるよう、そして生活自体がリハビリに繋がるように新たな物を導入していきたいと思っています。

バレー大会・忘年会

職員交流を目的とした公佑会ミニバレー大会が今年も行われ、多くの職員が参加しました。部署の違い等でなかなか関わる事の少ない職員同士が、プレーを通して交流し、表彰を兼ねた懇親会ではゲーム等も行われ、和気藹々と親睦を図る事が出来ました。

年末には医療法人社団公佑会・㈱ライフサポートの合同で忘年会が行われました。丹理事長の挨拶、横瀬医師の乾杯と続き、永年勤続表彰がありました。今年度は20年勤続者と10年勤続者が3名ずつで代表者が挨拶を行い、創立23年目を迎えた公佑会をより一層盛り上げていきたいと抱負を語りました。

忘年会では、業務改善案の表彰が行われます。これは、事前に改善案をパネル形式で発表し職員が投票し順位を決めるものです。今後も日頃から色々な提案をし、利用者の生活の質の向上や働きやすい職場環境を整えていけたらと思っています。

その後は、余興や豪華賞品が当たる抽選会が行われ、賑やかで笑い溢れる忘年会となりました。

新人職員紹介

吉川（よしかわ） 滉樹（こうき）
丹医院　看護職

①趣味　②休日の過ごし方
③抱負

①魚釣り
②ゆっくりと過ごす
③精一杯頑張ります

＊編集後記＊

今年の冬は暖かい日が続きましたが、急に寒い日があったりと気温の差が激しく不安定な天気がみられていました。

寒暖の差により体調を崩しやすくなります。手洗いやうがいを心がけ、しっかりと栄養・睡眠をとり、体調管理に気を付けて新しい年も過ごしたいですね。

今回の広報誌では、年末年始に行なわれた各部署での行事や活動、研修の様子などを記載しています。今後も、公佑会での活動内容をお伝え出来ればと思っています。

また、ホームページのブログでも活動の様子を見て頂く事が出来ますので、是非ご覧下さい。

URL http://www.kyk.or.jp
※Facebookは公佑会のホームページよりお入り下さい。